

横浜の大学を卒業して2年がたちましたが、その間は予備校に勤務し、生徒を大学に合格させることに必死の毎日でした。

(「なにが何でも明学！」という生徒もたくさんつき合ってきました。)『実りの喜び』は何ともいえないほど嬉しいのですが、それ以上に、受験を控え、将来のことや様々な事に悩み苦しむ浪人生を前に、ただただ企業としての『合格率・実績』に追われて文字通り叱咤激励するしかできないあり方に疑問を感じ、自分の進むべき道を祈り求めるなか、本当に偶然見つけたのがこの『キリ研』の募集広告でした。

大学のなかにチャペルがある、ということ自体がとても新鮮な毎日なのですが、久しぶりの大学の雰囲気のほか、いろいろなことを思い出しています。先生方の会話の中から、神を『否定』しようと哲学に答えを求めて必死にもがいていたこと、ひたすら教会に反発していたこと、そして苦しみの中で自分の弱さと神の愛の深さを心から感じさせられたことを、また安重根の遺墨からは、戦後責任・補償問題に一生かけていこうと決意したことを、等々…。何のために、いかに生きるのか、といつも問いかけていたことを、忙しさを理由にいつのまにか忘れていたように思います。

この遣わされた場所で、『何のために生きるのか』という思いをつねに抱きつつ、この研究所とそこに連なる方のため、前任の岡村さんのすてきな笑顔を思い出しつつ、感謝をもって毎日取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

(やまぎし ちひろ キリスト教研究所
教学事務アシスタント)

はじめまして

山岸 千尋

この5月から、キリスト教研究所の教学事務アシスタントとして勤務しています。わからないことに対して思わず考え込んでしまうことも多くあり、なかなか思うように仕事もはかどらずにいるのですが、その度ごとに先生方、職員の方々が本当に丁寧に教えてくださり、はやくもこの大学、そして『キリ研』にとっても魅了されています。